



しながわ



防災学校



防災区民組織コース
地域防災ステップアップコース



講座テキスト



しながわ 防災 学校

はじめに

しながわ
防災
学校

3. 風水害からの避難の考え方

2

風水害、土砂災害避難の基本的な流れ

基本

- 自らの命は自らが守るという意識を持つ
- 避難ができなくなる前に、早めに、安全な場所に避難する

警戒レベル	状況	避難行動等	避難情報等
5	災害発生 または切迫	・ 命の危険があることから直ちに安全を確保する	緊急安全確保
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞			
4	災害の おそれ高い	・ 危険な場所から全員避難する	避難指示
3	災害の おそれあり	・ 避難に時間を要する高齢者等は避難を開始する ・ その他の人は避難の準備や自主的に避難を開始する	高齢者等避難
2	気象状況悪化	・ 避難に備えて、ハザードマップ等で自らの避難行動を確認する。	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	・ 災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

参考：内閣府（防災担当）『避難情報に関するガイドライン（p. 34）』（令和3年5月）
品川区ホームページ「警戒レベルを付した避難情報等の運用」（令和3年6月）

しながわ 防災 学校

1 限目

防災区民組織として取り組む応急対策（1）

学習目標と学習内容

◆目標

防災区民組織として予防・応急の各段階で実施する災害対策を理解する

◆内容

1. 組織的な活動の必要性 5
2. 防災区民組織が実施する災害対応 12



1. 組織的な活動の必要性

首都直下地震で想定される揺れの強さ

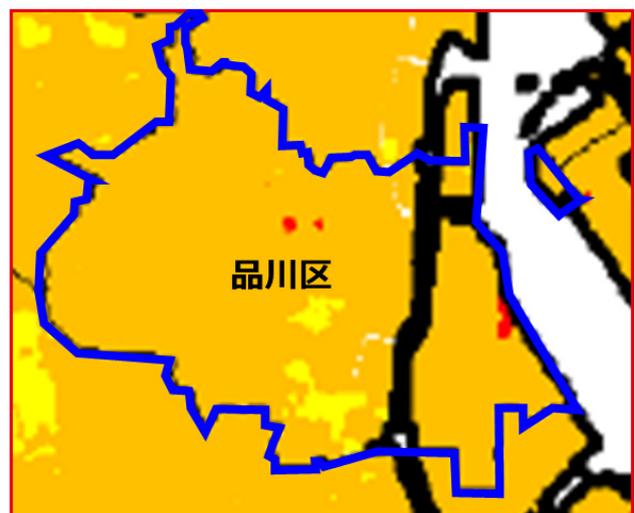
首都直下地震では、**ほぼ全ての地域で震度6強程度の非常に強い揺れが想定**されている！

震度6強の揺れって？

- はわないと動くことができない、飛ばされることもある
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる

震度

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4



東京湾北部地震（M7.3）関東地方南部を震源とする直下型地震

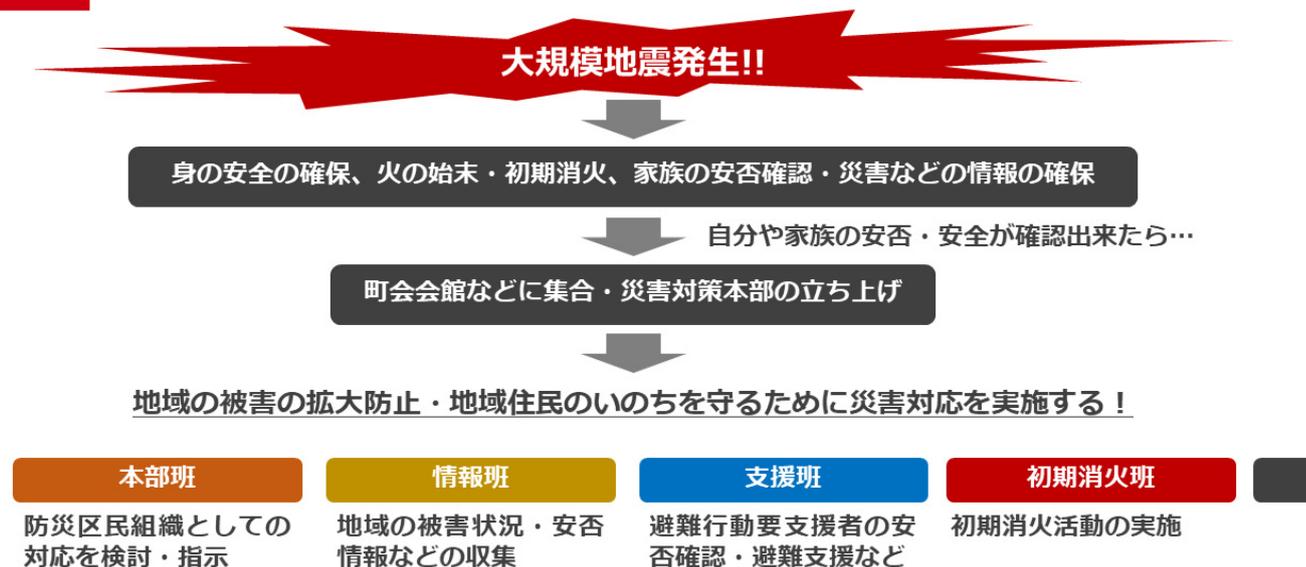


同時多発的に発生する被害



**防災区民組織が災害対策を実施するためには、
どのような準備が必要でしょうか？**

地震発生後の防災区民組織の対応イメージ



災害対応するために必要な組織

組織の編成

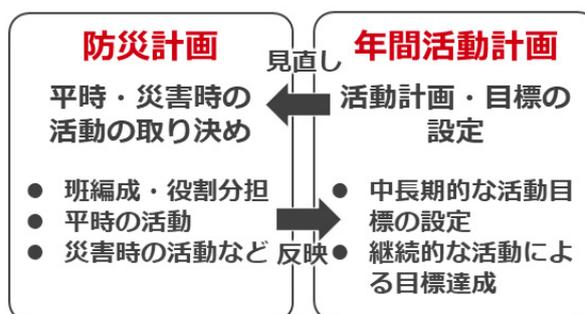
- 各部を編成し、部長などを決める
 - ▶組織の規模や地域の実情に合わせる
 - ▶発災時間に応じて班の人員に偏りがない配置を心掛ける
 - ▶女性の参画を進める



防災区民組織の標準組織図 (例)

組織の運営

- 平時・災害時に活動の参考となる計画などを作成する



災害対応の実態

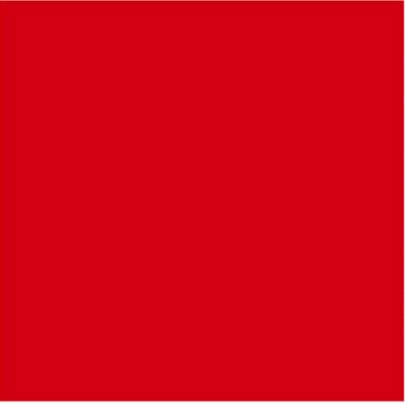
発災直後から組織的に活動できるとは限らない

- 【事例】 参集できた会員が少なかったため、各班の編成はできなかったが、重要度が高い安否確認などを実施（新清水沢町内会自主防災会（宮城県塩竈市））
- 【事例】 発災初日は4名程度で、徹夜で消防との情報交換などを行った。 人手が増えたのは2日目から（本町町内会自主防災会（宮城県名取市））



発災時期・規模、参集人数などに応じて柔軟な対応が必要

- 活動の優先順位に応じた活動
- 班編成にとらわれない活動
- 本部の立ち上げ有無にとらわれない活動

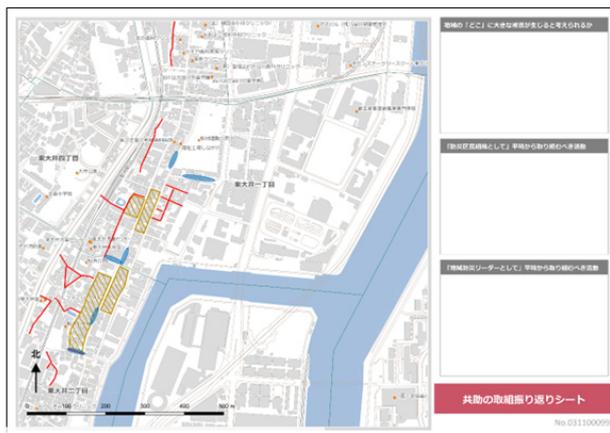


2. 防災区民組織が実施する災害対応

**大規模地震が発生した場合、
どのような被害が生じて、
対応が必要となるでしょうか？**

災害時の地域の危険性について整理してみましょう

皆さんの地域の「どこ」に被害の危険性があり
優先的な対応が必要となるのか確認してみましょう



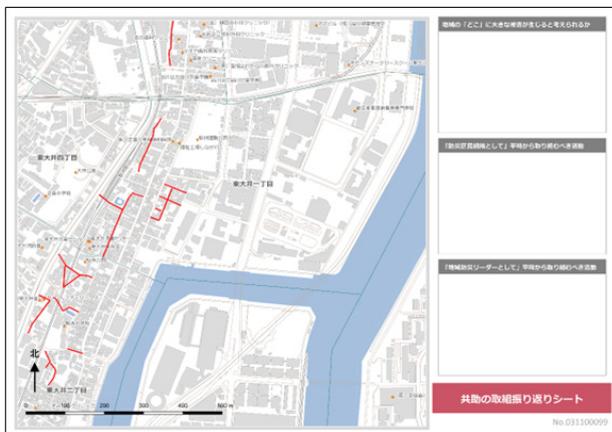
作業①：狭あい道路の確認

【凡例】狭あい道路

赤線



4 m未満の幅員の道路（狭あい道路）を確認して、
該当箇所に、**赤線**を引きましょう



＜記入する順番＞

- ① 町会・自治会内および避難経路周辺
- ② 町会・自治会の周辺

＜記入の目安＞

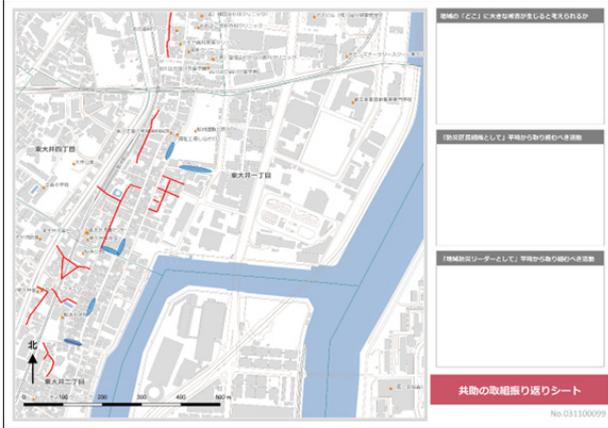
車両がすれ違うことができない程度
の道路のこと

作業②：ブロック塀の確認

【凡例】ブロック塀
青線囲み



ブロック塀が立っている場所を確認して、
該当箇所を、**青色のペン**で囲いましょう



<記入する順番>

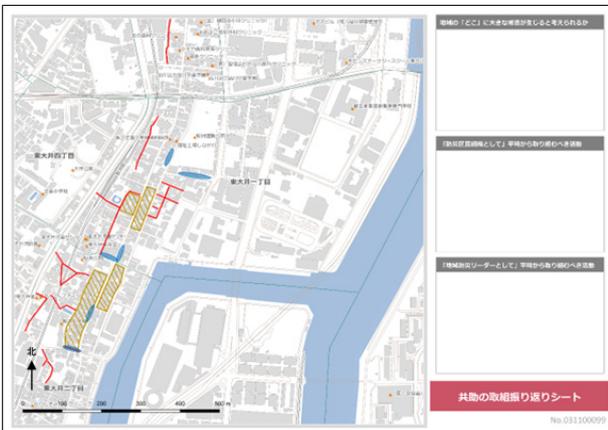
- ① 町会・自治会内および避難経路
周辺
- ② 町会・自治会の周辺

作業③：木造住宅密集地域の確認

【凡例】木造住宅密集地域
黄線囲み



木造住宅密集地域と考えられる場所を確認して、
該当箇所を、**黄色のペン**で囲いましょう

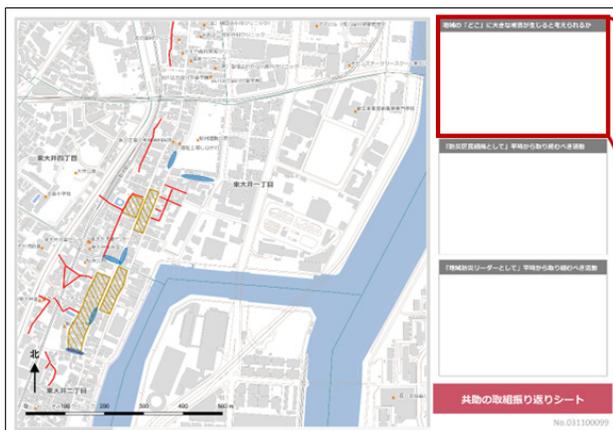


木造住宅密集地域の
イメージ

参考：
【写真上】東京都 都市整備局
[http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/keikaku/shingikai/pdf/riyou02_09.pdf]
【写真下】Google「Google Map」

作業④：作業結果の振り返り

様々な危険性の整理結果を踏まえて、大規模地震時には、地域の「どこ」に被害が生じる可能性が高いか書き出しましょう



地域の「どこ」に大きな被害が生じると考えられるか

区民避難所周辺に、狭あい道路、木密地域、ブロック塀など災害時に危険が生じる可能性のある場所が集中している

グループ内で作業結果を発表してください

【発表すること】

- 町会・自治会名
- お名前
- 作業の結果、地域の「どこ」に「どんな」危険性が想定されるのか

地域を防災上の視点から確認しましょう

地域で「優先的」に対応が必要な場所を認識しましょう

- **地域の特徴**を確認しましょう
 - 自然条件（標高、河川・池・沼・水路、液状化の危険性、地震の揺れの危険性など）
 - まちの構造（鉄道、主要道路、路地・狭あい道路、公園・オープンスペースなど）
 - 地域資源（人・施設）（防災に役立つ施設、危険な施設、役立つ人材・組織、避難行動要支援者の場所など）
- 被害想定や地域危険度などの資料と合わせて、**地域で想定されている被害や影響**を把握しましょう（被害想定、地域危険度、ハザードマップ（浸水・土砂災害）など）
- **「ハード・ソフト」×「自助・共助・公助」**の視点から、**地域に求められる対応**を認識しましょう（安否確認、下敷きになった方の救出、避難誘導経路の設定など）

しながわ 防災 学校

2 限目

防災区民組織として取り組む応急対策（2）

学習目標と学習内容

◆目標

防災区民組織として応急対策を実施するために必要な準備を理解する

◆内容

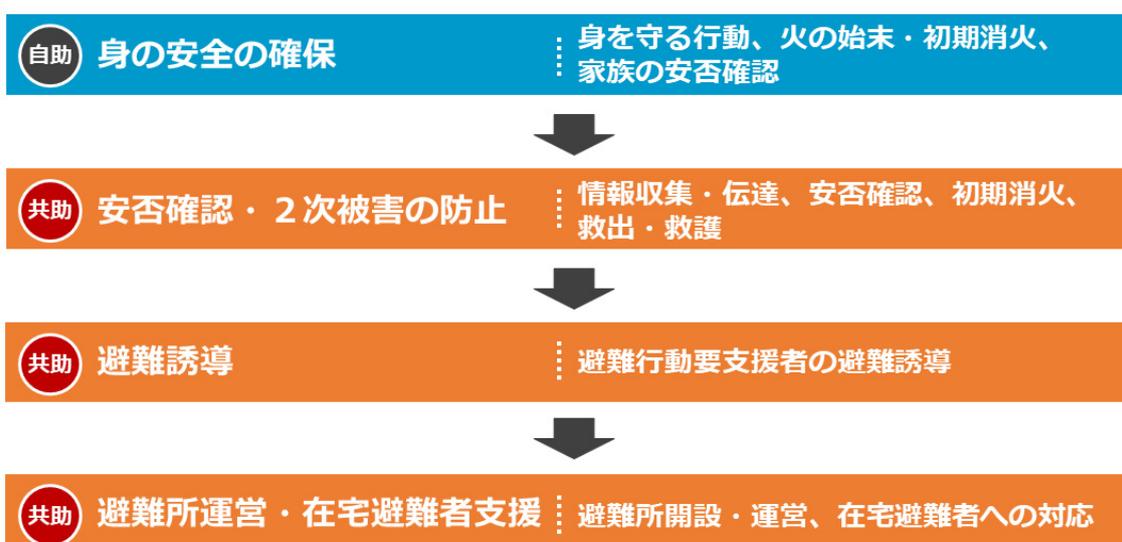
1. 応急対策のための準備

..... 3

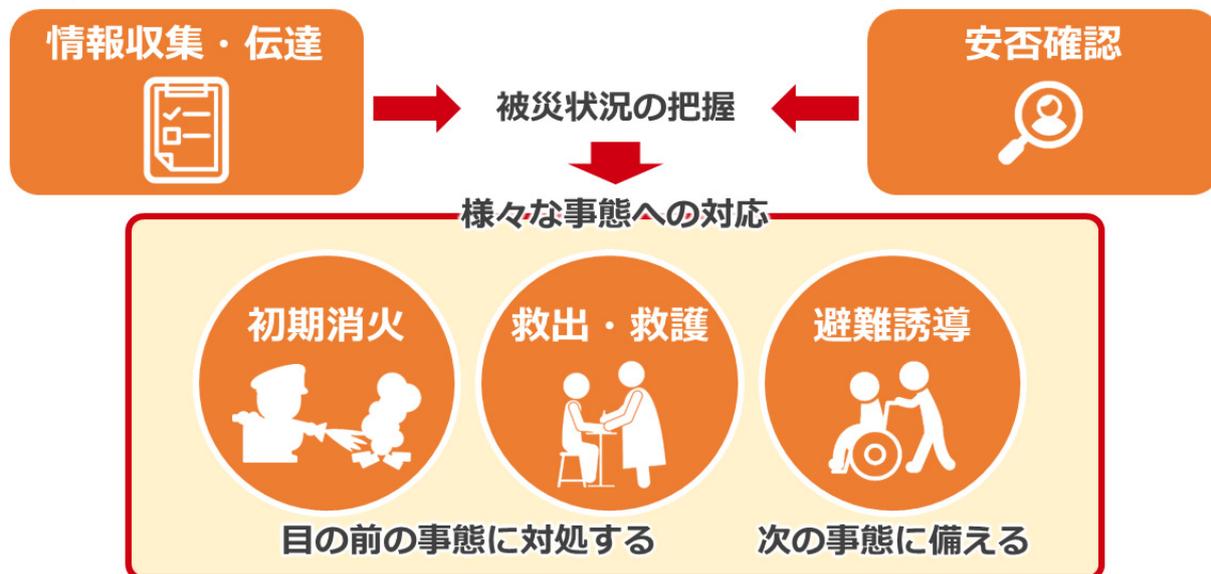


1. 応急対策のための準備

自助・共助による災害対応の流れ



地域で取り組む応急活動



**皆さんの地域では、平時から
どのような防災活動を行っていますか？**

作業①：個人作業その1

**皆さんの地域で平時から取り組んでいる防災活動
について書き出してください**

記入ルール

付箋紙1枚につき1つのことを書きましょう！

防災に関する取
り組みを書き出
しましょう

初期消火
訓練

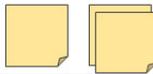
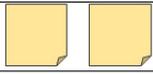
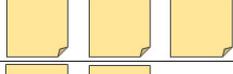
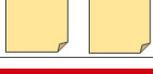
安否確認
訓練

あいさつ
運動

作業②：共有作業その1

付箋紙を1枚ずつ読み上げたあと、模造紙に貼り出しましょう

近い内容の意見は、
重ねるなどして
まとめましょう

区分	平時の防災活動
情報収集・伝達	
安否確認	
初期消火	
救出・救護	
避難誘導	

先進的な取り組みを確認して 組織の活動の参考にしましょう

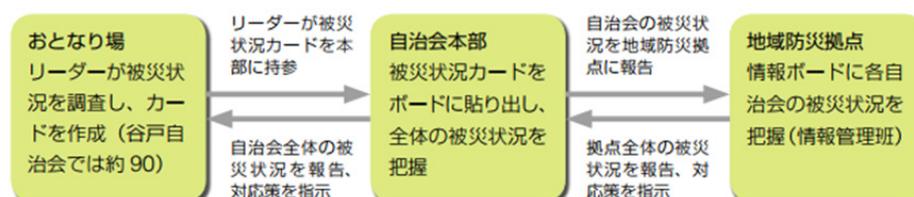
「情報収集・伝達」の先進的な事例

「班」「自治会本部」「地域の防災拠点」の3者が被災状況を共有し、対応策を円滑に実施 <谷戸自治会（神奈川県横浜市）>

- 3者で共有した情報に基づき、**救命救急措置、物資の配給、ボランティアの配置などを決めていくこと**としている

- ① 班のリーダーが被災状況を記入
- ② 記入したカードを自治会本部の情報ボードに貼付
- ③ 自治会で集約し、地域の防災拠点に届ける

※おとなり場とは、災害時に安否を確認し、助け合う隣近所の小さい単位（参考：横浜市「町の防災組織活動事例集」）



参考：横浜市「まちの安心・安全につながる「ヨコハマの『減災』アイデア集」」（平成28年3月）

「安否確認」の先進的な事例①

自宅の玄関に「印」を掲げたり、常設の「ホワイトボード」に世帯の安否情報を書きこんで報告

黄色いハンカチ

＜鉤取ニュータウン町内会（宮城県）＞

- 住民自ら自宅の玄関に「印」を掲げて、「無事」を知らせる
- 班長は、地域を見回り、印が掲げられていない世帯の無事を確認する
- 地震発生後 35 分で、全 129 世帯約 400 人の安否を確認できた



ホワイトボード

＜グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会（神奈川県）＞

- 管理棟に、各戸の部屋番号が予め記入されたホワイトボードを常設し、災害時には各世帯が自分で安否の状況を書き込む
- 安否情報の集約は本部が行う



参考：仙台市「東日本大震災時の自主防災活動-あの日-」（平成28年9月）、横浜市「まちの安心・安全につながる『ヨコハマの『減災』アイデア集（6 マンションの対策に学んでみよう）』（平成28年3月）

「安否確認」の先進的な事例②

マップを利用した安否確認

＜能登半島地震（石川県輪島市）＞

- 地域マップは、寝たきりや一人暮らしの高齢者などの所在地を蛍光ペンで色分けして、あらかじめ明らかにした地図
- 民生委員や福祉推進委員が日頃の見まわり活動を通じて、高齢者などの所在地が頭に入っていたこと、顔なじみになっていたことが功を奏した
- 発災直後の避難誘導活動だけでなく、その後の在宅避難者支援（特に要配慮者）などの活動でも役立った



高齢者	もも色	ねたきり高齢者 (名前を記入)
	き色	一人暮らし高齢者
	みどり色	その他の高齢者
障害者	そら色	障害者 (名前を記入)

図. 地域みまもりマップ（イメージ）

参考：内閣府防災「平成20年度防災白書コラム「地域みまもりマップ」による迅速な安否確認（能登半島地震）」（平成20年6月）

「初期消火」の先進的な事例

消火の知識を持つ住民の増加を図るため、1年任期の消火班を設け、定期的な訓練を実施 <大久保町自主防災隊（静岡県浜松市）>

1年任期の消火班の設定

- 用水やため池が多い地域特性を活かすために約20年前から取り組む
- 平成24年度は20名が消火班として活動



定期的な放水訓練

参考：静岡県「自主防災組織活動実践事例集」（平成25年度）

「救出・救護」の先進的な事例①

近隣住民・事業所・消防士と連携し、倒壊家屋からの救出を実施

<長野県北部を震源とする地震（長野県白馬村）>

- 近隣住民による資機材を使用しての救出
 - ▶倒れた家の下敷きになり、布団の中で身動きが取れなくなっていた住民を、**10人ほどの近隣住民が協力**してジャッキでがれきを持ち上げ、1時間以上かけて布団ごと引きずり出し救出した
- 近隣住民と事業所が協力しての救出
 - ▶耳と目が不自由で、屋根が崩れ落ちた家の中で動けずいた住民を、**近くにある建設会社に協力を求め**、重機（フォークリフト）を用いて屋根を持ち上げて救出した
- 近所の消防士と近隣住民が協力しての救出
 - ▶1階の天井が崩れ落ち、家族3人が閉じ込められて自力で脱出が困難だったが、**付近にいた消防士と近隣住民**が外から窓ガラスを割り、子供をまず救出した
 - ▶その後、消防団が常備しているチェーンソーを消防士が使用して、がれきの撤去や障害となっていた柱の切断を行いつつ、3人を救出した

参考：総務省消防庁「長野県北部を震源とする地震における共助による被害抑止」（平成27年1月）

「救出・救護」の先進的な事例②

防災マニュアルに役割、手順や方法を取り決め、それを基に訓練を実施 <みすずが丘自治会（滋賀県草津市）>

手順

- 公園倉庫から救出に必要な機材を搬出する
- 地域防災拠点の防災倉庫から、救出に必要な機材を搬出する
- いつとき避難場所に集まった人から救助活動協力者を集め、救助隊を編成する
- 救助隊が、協力して救出・救助活動を行う

ポイント

- 家屋などに閉じ込められている人を発見した場合、近くに消防のレスキュー隊などが展開している場合は、まずその助けを求める
- 近くにレスキュー隊などがいない場合は、二次災害に注意しながら救助活動に入る
- 救助隊での救出が困難と判断した場合は、消防に救出・救助を要請する
- レスキュー隊などが到着するまでの間は、閉じ込められている人への声かけなど、励ましの活動を行う

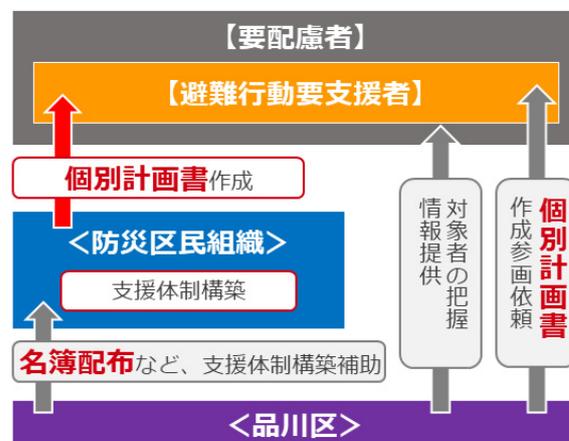
参考：みすずが丘自治会防災マニュアル

避難行動要支援者の組織的な支援

発災時の対応



平常時の対応



参考：品川区「品川区要配慮者支援全体計画（p.12）」

各地域で進む支援体制構築の取り組み事例

北品川一丁目町会 防災区民組織

【個別計画書の作成】

- 集金などで定期的に担当地区を巡回している女性部を中心に、個別計画書の作成方法を習得

【避難誘導ワークショップの実施】

- リーダー育成の重要性を認識し「北一会館災害対策本部要員の心得（10カ条）」を作成し、会員への周知を推進

出石町会 防災区民組織

【個別計画書の作成】

- 名簿に掲載している避難行動要支援者全員分の個別計画書を作成

【継続的な安否確認訓練の実施】

- 毎年の防災訓練時に、避難行動要支援者への安否確認訓練を実施している

参考：品川区「避難行動要支援者の支援体制づくりの手引き」（平成29年10月）

**応急対策を的確に実行するために
地域で必要な準備はできていますか？
どのような準備が不足していますか？**

災害時の活動ができるようになるための4要素

継続的な取り組みにより、活動の改善を行う

実践を繰り返す

④教育・訓練

- ルール・方法を周知し、理解してもらう
- 定期的に訓練を行う
- 訓練結果から課題を把握し、①～③を見直す

仕組みを整える

①体制

誰が役割を担うのか

②手順・方法 (マニュアル)

何をどのように実施するのか

③道具

何を使って実施するのか

作業③：個人作業その2

防災区民組織として応急対策を効果的に実施するために
平時から取り組むべき活動を書き出してください

記入ルール

付箋紙1枚につき1つのことを書きましょう！

既に出されている
意見は記入不要です

安否確認
のルール
を決める

避難行動
要支援者
を把握する

情報収集の
優先順位を
決める

作業④：共有作業その2

付箋紙を1枚ずつ読み上げたあと、模造紙に貼り出しましょう

近い内容の意見は、
重ねるなどして
まとめましょう

区分	平時の防災活動			
情報収集・伝達				
安否確認				
初期消火				
救出・救護				
避難誘導				

作業⑤：共有作業その3

皆さんの組織で今後重点的に取り組んでいきたい活動に
赤い●シールを貼ってください（いくつでもOK）

地域の「弱み」を
克服するための活
動を中心にシール
を貼りましょう

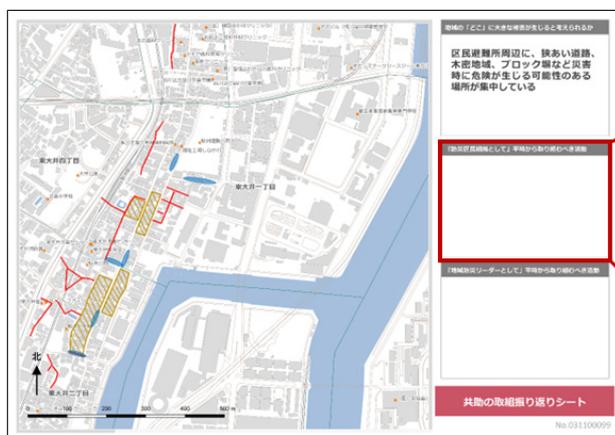
区分	平時の防災活動			
情報収集・伝達				
安否確認				
初期消火				
救出・救護				
避難誘導				

発表

赤シールが貼られた数が多い順に3つ

作業⑥：作業結果の反映

検討した結果や他グループの発表を聞いて、
組織として今後取り組むべき活動を記入しましょう



「防災区民組織として」平時から取り組むべき活動

- あいさつ運動を通じた顔の見える関係の構築
- 地域の見守りマップを参考に、避難行動要支援者の見える化を行う
- 安否確認ルールを決める

まとめ

**地域防災リーダーは、地域が的確に災害対応ができるよう
様々な活動に率先的に取り組みましょう**

- 体制を検討する際には、防災区民組織の規模に応じた班編成としましょう
- 効率的・効果的な手順・方法となるよう、地域にいる専門的な活動に就いている方に助言をもらいましょう
- 道具は、継続的に維持・管理できる範囲で準備しましょう
- 防災講演会や訓練を継続的に実施し、災害対応力を向上させましょう

しながわ 防災 学校

3 限目

地域で取り組む被災者対応（1）

学習目標と学習内容

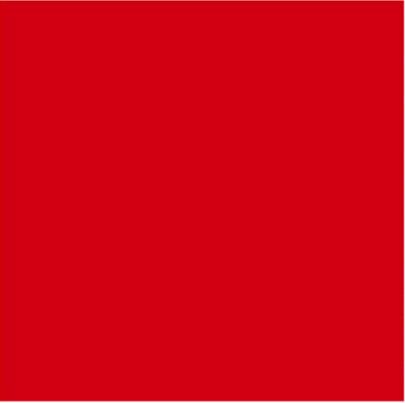
◆目標

地域で取り組む被災者対応の必要と避難所開設の考え方を理解する

◆内容

1. 多様な避難形態と在宅避難 3
2. 被災者受け入れの流れと避難所開設の課題 9
3. 避難所開設のための準備（避難所空間の検討） 22





1. 多様な避難形態と在宅避難

**在宅避難には、
どのような課題があるのでしょうか**

在宅避難（熊本地震の実態と課題）

実態

- 様々な理由で指定避難所に来られない被災者が多くいた。
- 地元福祉団体（地域包括支援センターなど）、応援保健師、民間団体と共同し、在宅避難者の把握に努めた事で、支援につながった。

課題

- 余震も多く、風雨にさらされた損壊家屋に居住を続け非常に危険な状況の方もいた。
- 被災者の自発的行動がない場合、適切な支援及び把握が非常に困難だった。



参考：内閣府防災「平成30年度フォローアップ研修資料」

車中避難とテント避難（熊本地震の実態と課題）

【車中避難】

実態

- 車中避難の把握が困難だった。
- 避難所の駐車場は、車中泊・避難所内避難者により常に混雑した。
- 日中出かける際に私物を置いて場所取りをする避難者が多く、私物を撤去し駐車場を利用しようとすると憤慨するため対応に苦慮した。
- 屋外の為食事配給の放送が聞こえないとの苦情があった。

課題

- エコノミークラス症候群の発生防止
- 場所取りのルール作り



参考：内閣府防災「平成30年度フォローアップ研修資料」

【テント避難】

実態

- 室内温度が日中50度を超す場合もあり、避難し続けることは困難だった。
- 大雨や雷の際非常に危険。6月頃の大雷雨の際にはテントの倒壊浸水被害が多くみられた。
- 余震が多かったため、建物への不安に対応できた。
- 指定避難所に比べプライバシーがある程度守られる。

課題

- 気候条件に大きく左右される。



2. 被災者受け入れの流れと 避難所開設の課題

区民避難所とは

区民避難所の役割

- 家屋の倒壊、焼失などで被害を受けた区民、また、被害を受ける恐れのある区民を一時的に受け入れ、保護するために開設する施設
- 地域の防災拠点（救援物資の集積場・情報集約の場など）

区民避難所の担い手

- 防災区民組織・施設職員・区民避難所派遣職員・避難者がそれぞれ役割を担って連携しながら運営

留意点

- 避難所となる施設も本来の用途のために復旧する必要がある
（学校が避難所であれば、学校の早期再開を見据えた避難所運営が必要）

避難所運営の担い手

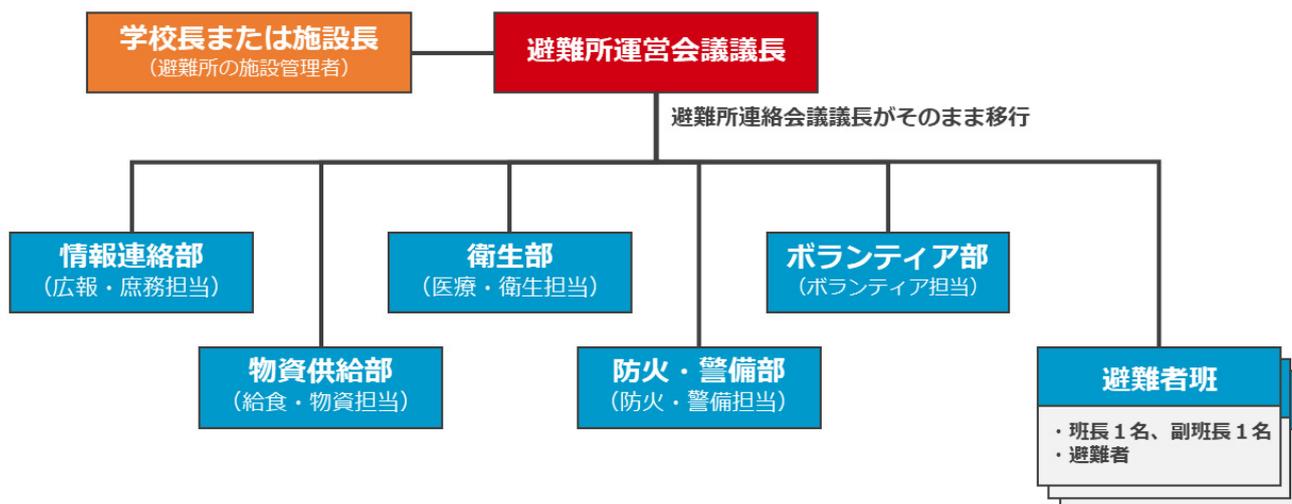
防災区民組織が中心となり、自主的な運営を行う

- **防災区民組織**
 - 避難所の管理・運営
 - 避難所における各業務の担当
- **施設職員**
 - 児童・生徒の避難誘導
 - 児童・生徒の安否確認
 - 避難所の管理・運営
- **区民避難所派遣職員**
 - 情報の収集
 - 区災害対策本部との連絡調整
 - ボランティアの受入れ
- **避難者**
 - 自主的な避難所運営



参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.8）」（平成31年3月）

運営組織図（例）



参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.9）」（平成31年3月）

避難所開設・運営の流れ



**避難所の開設にあたって、
どのような課題が考えられますか？**

避難所開設と課題



区民避難所の開錠

事前協議に基づいて、鍵の貸与を受けたものが開錠する

開錠担当者の例

- 学校が開校している場合は、施設管理者が開錠する
- 事前の取り決めにより、町会・自治会長などが開錠する

留意点

- 休日・夜間など、区民避難所施設が施錠時の対応についての検討が必要
- 開錠 = 区民避難所の開設ではないため、区民避難所施設の安全点検が完了するまで、施設内への立ち入りを禁止することが必要



© 株式会社サイエンスクラフト

区民避難所の安全点検

避難者が施設内に立ち入る前に、必ず安全点検を実施する

点検方法

- 安全点検は、「施設の安全確認チェックリスト」を活用して、**必ず複数名で実施する**（安全確保、点検結果の信頼性確保のため）

留意点

- 二次災害に注意しながら、建物火災・延焼火災などが区民避難所周辺で起きていないか確認する
- 区民避難所が使用不可の場合、施設を閉鎖（立ち入り禁止）し、区民避難所派遣職員を通じて区災害対策本部に報告する

区民避難所の安全点検方法

ポイント

- 複数名で、目視により確認を行う
- チェックリストの質問項目に関わらず、**少しでも建物の状況に不安がある場合は、施設管理者や区民避難所派遣職員へ報告する**
- 安全確認の訓練だけでなく、被害程度と使用可否のイメージを共有しておく
（「大規模地震発生直後における施設管理者等による建物の緊急点検に係る指針（内閣府防災担当）」の活用など）

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.34-35）」（平成31年3月）

施設の安全確認チェックリスト

建物の外から見て、次の項目を確認することによって安全を確認してください。

質問	回答	対応策
1. 使用する建物の種類、区民避難所として適切かどうか？	A. いいえ B. 確認しているようだが不安がある C. 確認済みである	
2. 建物内に被害が及んでいないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
3. 建物の床がゆがんでいないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
4. 建物の壁が割れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
5. 建物の天井が落ちていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
6. 建物の柱がゆがんでいないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
7. 建物の基礎が露出していないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
8. 建物の屋根が壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
9. 建物の窓が壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
10. 建物のドアが開かないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
11. 建物の階段が壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
12. 建物のエレベーターが壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	

建物の中に入り、次の項目を確認することによって安全を確認してください。

質問	回答	対応策
1. 床が割れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
2. 天井が落ちていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
3. 壁が割れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
4. 柱がゆがんでいないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
5. 窓が壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
6. ドアが開かないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
7. 階段が壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	
8. エレベーターが壊れていないか？	A. いいえ B. 確認済みである C. 不安がある	

【注意事項】
① 上記の項目を確認する際は、「危険」です。確認が済むまで避難所を立ち入り禁止とし、区民避難所派遣職員へ報告してください。
② 不安がある場合は、施設管理者や区民避難所派遣職員へ報告してください。
③ 不安がある場合は、施設管理者や区民避難所派遣職員へ報告してください。
④ 不安がある場合は、施設管理者や区民避難所派遣職員へ報告してください。

施設の安全確認チェックリスト

区民避難所環境の整備

施設内の被害状況を確認し、避難スペースなどの環境を整える

方法

- 「施設の安全確認チェックリスト」などを活用して、区民避難所の被災状況や想定される避難者数を確認し、**状況に見合った避難所レイアウトを検討する**

留意点

- 避難スペースは、配慮の必要な方に配慮したスペースを確保する
- 避難所レイアウトが決まったら、避難所のルールや立ち入り禁止などの掲示物を掲示する

詳細は、ワークの中で説明します

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.21-23）」（平成31年3月）

避難者の受入れ

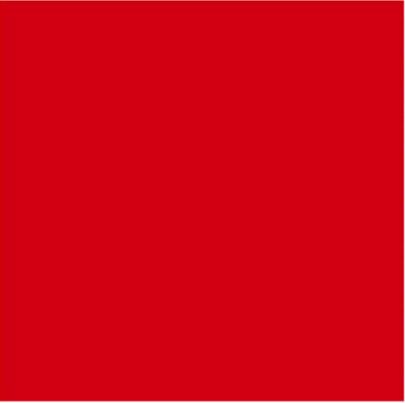
地域（町会・自治会単位）での受付・受入れを基本とする

受入れ方法

- 地域（町会・自治会単位）を基本として受付を行い、「避難者受付簿【避難直後】」を配付し、避難者に記入してもらう
- 受付した方に対して、まずは避難所生活ルールを周知・説明する

留意点

- 発災直後は、人数や配慮の必要性など避難所の避難者把握のための最小限の情報を聞くに留め、区民避難所での避難生活が始まった時点で、改めて避難者1人1人の詳細な情報を伺う



3. 避難所開設のための準備 (避難所空間の検討)

**避難生活を送る区民避難所には、
どのような部屋・場所が、
どこに必要となるのでしょうか？**

作業①：個人作業

避難所にどのような部屋・場所が必要か、
グループで検討し、黄色の付箋紙に書き出してください

記入ルール 付箋紙1枚につき1つのことを書きましょう！

避難所は共同生活
の場であり、様々な
支援・配慮の必
要な人が避難する

物干し場

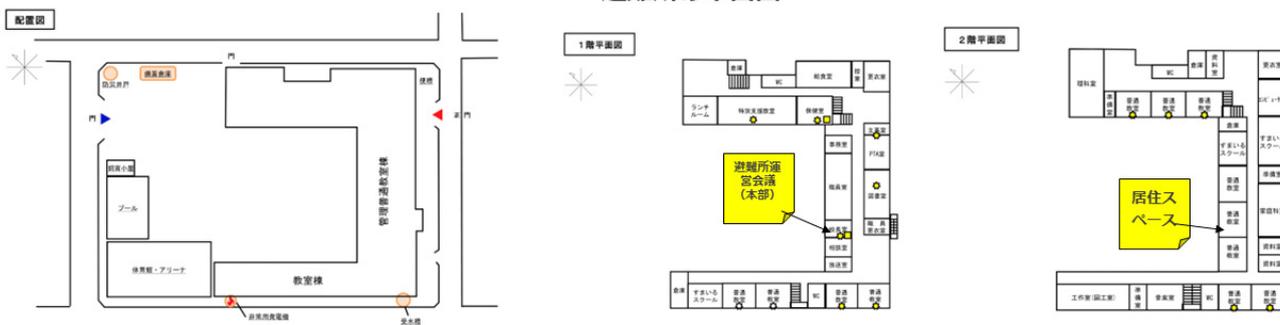
居住
スペース

避難所
運営会議
(本部)

作業②：グループ共有

避難所に必要な部屋・場所がどこに必要か、
グループで検討し、平面図上に貼り出してください

避難所の平面図



避難者の受付



情報提供スペース



26

居室



提供：株式会社サイエンスクラブ

避難所外の避難者



救護室



相談室



27

更衣室



提供：株式会社サイエンスクラブ

キッズスペース





提供：株式会社サイエンスクラフト
引用：「トイレ衛生対策―複合災害とトイレ―地震・豪雨・感染症―現場の声から学ぶ」日本トイレ研究所（令和2年9月30日）



提供：株式会社サイエンスクラフト

施設割り当ての考え方

避難者が施設内に立ち入る前に、必ず安全点検を実施する

対応の基本

- **区域・場所を分ける**（避難者が生活する区域、避難所の管理運営を担う場所など）
- **使用して良い部屋**（教室・ランチルームなど）、**立ち入っては困る部屋**（校長室・職員室・理科室など）を明確にする

留意点

- **プライバシーを確保する**（更衣室、物干し場、授乳スペースなど）
- **障害児・者や家族、乳幼児・妊産婦を持つ家族に配慮する**
（段差や上下移動の極力少ない低層階、室温を一定に保つ冷暖房設備や風通しの良い部屋、トイレへの移動が便利な部屋）

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.22）」（平成31年3月）

施設割り当て例

避難者による立ち入りを原則禁止するスペース（例）

校長室、職員室、職員更衣室、主事室、印刷室、準備室（理科・図工）、音楽室、コンピュータ室、理科室、資料室、屋上、備蓄倉庫など

○屋外

施設・設備	割り当て
校庭	一時待機スペース
屋上	物干し場
飼育小屋、浅井戸周辺	ペットスペース
便槽（マンホールトイレ）	仮設トイレ

○屋内

施設・設備	割り当て
体育館・アリーナ	一時待機スペース
更衣室	更衣室
相談室	授乳スペース、相談スペース
すまいるスクール（1階）、特別支援教室	避難行動要支援者スペース

○屋内

施設・設備	割り当て
図書室	キッズスペース
家庭科室	給湯・調理スペース
校長室	避難所運営会議（本部）
職員室	情報収集、連絡調整
工作室（図工室）	避難所内の必要器具などの工作作業室
事務室	物資配給・補給など
保健室	医療・衛生管理
主事室	安全確保、トラブル防止
PTA室	ボランティア受入・控室
教室	臨時宿泊所
トイレ（耐震化）	通常利用
トイレ（耐震化なし）	簡易トイレによる利用
ランチルーム	食事スペース

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.15-16）」（平成31年3月）

トイレの確保・管理

災害時の実態

- 水が流れないトイレを使用したら、あっという間に便器内は大小便の山
- 東日本大震災時の津波被災地域では、このようなトイレが数多く見られた



使用するトイレの優先順位

- ① 耐震化されたトイレ
(水が出ない場合は、別途水を確保する)
- ② 使い捨ての簡易トイレ
- ③ 組み立て式の仮設トイレ



簡易トイレ例



組み立て式トイレ例

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】(p.39)」(平成31年3月)、品川区「防災用品あっせんのご案内」、内閣府(防災担当)「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」(平成28年4月)

避難所生活環境への配慮

対応の基本

- 季節によって配慮すべきこと
 - 【特に夏】適切な水分補給のために 給水所の設置
 - 【特に冬】効率的に暖がとれるように 暖房器具の設置
- 安心・安全の確保 (明るさの確保、トイレなどの配置、防犯パトロールなど)

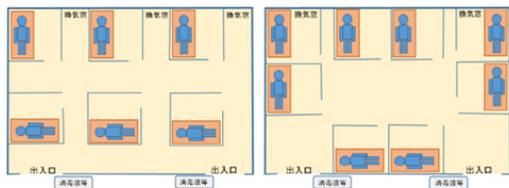
ポイント

- あらかじめ避難所連絡会議の場で話し合い、マニュアル化しておくことが大切
(「帰宅困難者用」のスペース、「ペット」の取り扱い、グラウンドの使い方など)



新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営

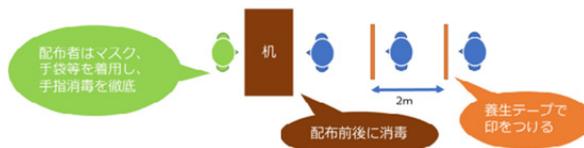
発熱・咳等のある人や濃厚接触者専用スペースのレイアウト (例)



受付時の感染症対策



感染症に配慮した物資配付



毎日の健康管理



しながわ 防災 学校

4 限目

地域で取り組む被災者対応（2）

学習目標と学習内容

◆目標

多様な主体と協力・連携した避難所対応の必要と考え方を理解する

◆内容

1. 被災者対応における課題 3
2. 避難所運営のための準備
（多様な主体との連携・協力の必要） 19
3. まとめ 36



1. 被災者対応における課題

避難所対応の基本

対応の基本

平等性

公平性

優先性

留意点

- 多数の避難者、避難所のスペース、物資等が限られた状況から、「一番困っている人・弱い人」から柔軟に、機敏に、臨機応変に対応

避難所運営の実態

避難者が当事者意識を持って運営に参加・協力することが重要

避難所運営の実態

- 避難者自身の避難所運営を担う意識の欠如により、自治体職員が主体で避難所運営したため被災者の生活再建支援が遅延
(物資の受入・避難所への配送、家屋被害認定調査、罹災証明書の発行など)
- 衛生環境悪化による感染症の発生

避難所運営が上手くいった事例

- 避難者自身の当事者意識による運営
- リーダーシップを持つ方が中心となった運営

**避難所を運営するにあたって、
どのような課題が考えられますか？**

区民避難所での生活が困難な方への対応（要配慮者・避難行動要支援者など）

当事者や家族に対して、健康状態などを丁寧に聴取する

対応方法

- 避難所内にスペースを確保（出入口の近く、トイレの近く、和室など）
- 状態に応じて適切な避難所（福祉避難所）へ移送

留意点

- 障害特性・個々の状態に応じた支援が必要
- 円滑な支援には、平時から要配慮者・避難行動要支援者の把握が重要

参考：品川区「品川区地域防災計画」

備蓄物資・食料の配付

物資の管理状況をもとに、都度配給量を検討する

配付方法の例

- 避難者班の代表者または世帯の代表者に取りにきてもらう

配付時の留意点

- 自ら物資を取りに行けない人への配慮（行動が困難、情報が聞き取れないなど）
- 配慮が必要な方への適切な物資の配付
（乳幼児、食物アレルギー、病気で食べものに制限がある、そしゃく機能が低下している人など）
- 女性用品（生理用品、下着など）の女性の担当者による配付
- 一定期間経過後は、質の確保に努める
（メニューの多様化、適温食の提供、栄養バランス、要配慮者への配慮など）

区民避難所における備蓄などの状況（一部紹介）

食料品など	
品名	数量
アルファ化米・ビスケット	3,000食
梅粥	150食
アレルギー対応食料品	100食
梅干	500粒
飲料水	1,800ℓ
粉ミルク（アレルギー対応含む）	26缶
経口補水液	60包
野菜ジュース	510缶

資器材など	
品名	数量
鍋・カマドセット	2組
LPガスバーナー	1台
固形燃料	72個
給水容器（20ℓ）	30個
ろ過機	1台
受水槽遮断装置	1台
非常用発電装置	1台
特設公衆電話	5台
仮設トイレ用便槽	5～12槽
レスキューセット	1セット
ソーラーパネル付充電式LED懐中電灯	1台

生活用品	
品名	数量
毛布	500枚
エアーマット	100枚
防水シート	50枚
仮設トイレ	5基
洋式トイレ用台座	5台
組立式簡易トイレ	100回
簡易トイレセット	5,000回
トイレトイレットペーパー	100巻
おむつなど	1,500枚
生理用品	780枚
医療ミニセット	2セット
医療資材セット※	1式
手指消毒液 （義務教育学校は120本）	60～120本
照明（ランタン）	10個

避難所の備蓄は限定的なので、
家庭や地域で備蓄をする必要
がある

※「医療資材セット」は学校医療救護所のみ
【13か所】



避難所運営に必要な人員や物資が 足りない場合は？

支援の重要性

運営状況を踏まえて、人的・物的ニーズを具体的に把握する

支援の例

人的支援

- **一般ボランティア**（物資の運搬・仕分け、炊き出し、食料・飲料水配付、片付け支援など）
- **専門ボランティア**（多言語対応、障害者対応、保健医療対応など）

物的支援

- **衣食住に関する資源**（食料・飲料水・衣類・生活用品・衛生用品・熱源・光源・家電など）
- **資器材など**（建材・パソコン・プリンタ・通信機器など）

※支援とは、人的・物的資源などの支援・提供を受け、活用すること

受援の対応事例（熊本地震時の避難所内物資集積拠点）

物資ごとに配置を決めて集積



物資配付の様子



**避難生活を送っているのは
区民避難所の避難者だけではない！**



17

区民避難所以外の避難者への対応（在宅避難者など）

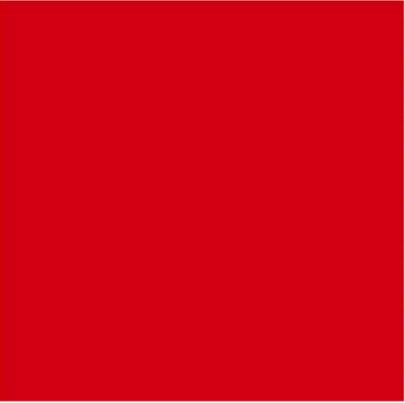
**区民避難所の物資・情報・人的支援は、
避難所生活者と避難所以外の生活者に等しく配分する**

対応の基本

- 避難所への届け出の呼びかけや状況の聞き取りにより区民避難所以外で生活する避難者の状況を把握する
- 避難者自ら避難所へ物資・情報などを受け取りに来てもらうよう周知する

留意点

- 自ら避難所へ向かうのが難しい方に対しては、配達などを検討する
- エコノミークラス症候群などによる災害関連死の予防啓発を行う
- 避難所以外の避難者への支援に関する理解を浸透させる



2. 避難所運営のための準備 (多様な主体との連携・協力の必要)

**避難所で起こる様々な出来事に対して
どのように対応する必要があるでしょうか？**

グループ内作業

グループの中で、リーダーを1名決めてください
リーダー以外の方は、積極的に議論を行ってください

班を越えた相談はしないでください



対応に『正解』『不正解』はありません

『より良い』対応を目指し、色々な角度から積極的に発言してください
あえて条件設定が不明確な設問があります

進め方 (イメージ)

課題



この出来事に対応
してください

どのように対応するか
考えましょう



対応・配慮すべきこ
とは模造紙に貼りま
しょう



対応する場所が特定さ
れる場合、机上の図面
に貼りましょう



前提条件（災害の発生状況）

あえて不明瞭に設定している条件もあります

- 2019年12月XX日（日）午前6時00分 大規模地震発生
- 東京湾北部を震源とする直下地震 M7.3 区内最大震度7
- 天気晴れ、風位風速北北西8.0m/秒
- 建物被害（全壊・半壊）多数、詳細不明
- 水道は断水、ガスは停止、電気一部停電
- 人出は疎ら、交通量少ない

前提条件（区民避難所開設までの動き）

- 【6：05】 品川区災害対策本部を設置
- 【6：30】 本部長は、被害を受けた住民などを一時的に受け入れて保護するため、区の全区民避難所（52箇所）を開設するよう指令
- 【7：00】 区民避難所には、防災区民組織の役員が駆け付けて開錠し、施設の被害状況を目視により確認
- 【8：00】 ガラス窓の破損など一部被害を認めるも耐震化しているため校舎・体育館に大きな被害なし
- 【8：30】 防災区民組織が区民避難所を開設し、避難者の受け入れを開始

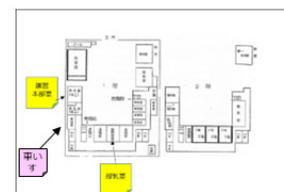
現在、区民避難所にはおよそ300人程度の避難者が集まっている模様

状況付与 1

車いすの避難者がやってきました。 どのように対応しますか？

- ① 配慮・対応すべきことを **ピンクの付箋紙** に書き出す
- ② 必要に応じて図面に落とす
- ③ 避難生活が長期化する場合に連携・協力すると良いと考えられる知識・能力を持った方について **緑色の付箋紙** に書き出す

必要に応じて
図面に落とす
ピンクの付箋紙



模造紙に整理する

課題	対応方法・内容	連携・協力すると良い方
車いす		

車いすの避難者への対応

避難所で困ること

- 床面に座ることが難しい場合がある
- 脊髄を損傷している人は、感覚が無い上に体温調節が難しい場合がある

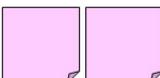
対応方法と連携・協力先

- 居住スペースの通路側に確保し、移動距離を短くする
- トイレなどの介助は、未経験者や力が十分でない人が行くと事故につながる恐れがあるため、家族や経験者の協力を得ることが重要
- 避難生活が長期化する場合、福祉避難所への移送やホームヘルパー、介護福祉士、介護支援専門員などと連携・協力する

状況付与2

**赤ちゃんを抱えた母親が避難してきました。
どのように対応しますか？**

- ① 配慮・対応すべきことを**ピンクの付箋紙**に書き出す
- ② 必要に応じて図面に落とす
- ③ 避難生活が長期化する場合に連携・協力すると良いと考えられる知識・能力を持った方について**緑色の付箋紙**に書き出す

課題	対応方法・内容	連携・協力すると良い方
車いす		
赤ちゃん		

乳幼児を持つ保護者への対応

避難所で困ること

- プライバシーを守れる場所が必要（授乳室、おむつ交換室）
- 乳児のための必需品不足（粉ミルク、おむつ、おしりふきなど）

対応方法と連携・協力先

- 乳幼児のアレルギーを事前に確認し対応する
- 哺乳瓶の煮沸消毒や薬液消毒ができないときは、使い捨ての紙コップなどを活用して少しずつ飲ませる（硬水は避ける）
- おむつが無い場合は、タオルを代用する
- **避難生活が長期化する場合、医療機関関係者、保健師、保育士などと連携・協力する**

状況付与3

外国人（日本語が話せない）の避難者がやってきました。どのように対応しますか？

- ① 配慮・対応すべきことを**ピンクの付箋紙**に書き出す
- ② 必要に応じて図面に落とす
- ③ 避難生活が長期化する場合に連携・協力すると良いと考えられる知識・能力を持った方について**緑色の付箋紙**に書き出す

課題	対応方法・内容	連携・協力すると良い方
車いす		
赤ちゃん		
外国人		

外国人への対応

避難所で困ること

- 言葉の壁で情報が得られないため、ルールを理解など意思疎通が難しい
- 宗教や習慣の違いで誤解が生じることがある

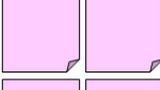
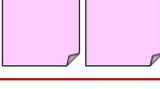
対応方法と連携・協力先

- スマートフォンなどの翻訳機能を活用する
- やさしい日本語やボディランゲージを活用し情報提供する
- 看板や張り紙はイラストや図を中心に分かりやすく表示する
- 宗教上食べられない食材などを本人に確認して対応する
- **通訳ができる方（避難者、ボランティアなど）や日本語が理解できる外国人の避難者などと協力・連携する**

状況付与4

避難所内で咳をしている方が多く見られ、避難所の衛生環境の悪化も含めて避難者の健康が心配です。
こうした状況に対して、どのような方と連携・協力して、どのように対応すればよいのでしょうか。

- ① 配慮・対応すべきことを**ピンクの付箋紙**に書き出す
- ② 必要に応じて図面に落とす
- ③ 避難生活が長期化する場合に連携・協力すると良いと考えられる知識・能力を持った方について**緑色の付箋紙**に書き出す

課題	対応方法・内容	連携・協力すると良い方
車いす		
赤ちゃん		
外国人		

避難所内の健康・衛生管理

課題

- 避難所では、水が不足するなどにより衛生状態が悪く、手洗いやうがい
ができない状況の中で体調を崩している人が多い

対応方法と連携・協力先

- 二次的な健康被害の予防
(健康相談、エコノミークラス症候群などの予防のための保健指導)
- 感染症や食中毒の予防 (インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症予防のために、手洗い、うがい、部屋の換気及びトイレ消毒などの保健指導など)
- **保健師、地域包括支援センター、医療支援チームなどの専門的な知見を持った方の診療やアドバイスをもらいながら取り組む**

状況付与5

区から避難者数分の物資が届く予定ですが、受入・保管方法や配付方法が決まっています。こうした状況に対して、どのような方と連携・協力して、どのように対応すればよいのでしょうか。

- ① 配慮・対応すべきことを **ピンクの付箋紙** に書き出す
- ② 必要に応じて図面に落とす
- ③ 避難生活が長期化する場合に連携・協力すると良いと考えられる知識・能力を持った方について **緑色の付箋紙** に書き出す

課題	対応方法・内容	連携・協力すると良い方
車いす		
赤ちゃん		
外国人		

物資の保管・配付方法

対応方法と連携・協力先

- **保管場所は、施設管理者に相談して決めるとよい。**
 - 物資配付の際の導線を減らし、物資を一括で管理できるとよい。
- **保管方法は、物資管理に精通している方などがある場合には意見をもらうとよい。**
 - 東日本大震災では、食料・生活用品など大まかに分類して保管している学校が多かった
- **物資の配付時には、学生に協力を依頼したり、女性用品は女性が配付するなど協力して配付するとよい。**
 - 熊本地震では、体育館一面に物資を保管し、被災者が必要な分だけ自ら取りに来る方法を取っていた避難所も見られた

避難所生活に必要なルール例

トラブルを防ぐため、平常時から対応方法を検討しましょう

避難所全体共通のルール記載項目例

避難所の運営主体／自主運営管理への協力／避難所の開設時期／避難者の名簿登録／土足の可否／部屋の使用可否／食料配付の方法 など

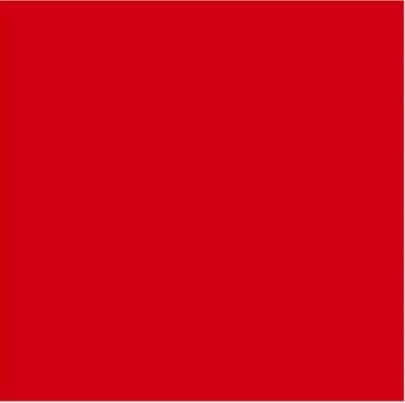
共同生活上のルール例

避難所班の構築／交代・当番制／配慮の必要な方への配慮の心掛け／飲酒・喫煙場所・時間帯／生活時間（起床・消灯・食事・放送など） など

その他必要とされるルール例

トイレ使用のルール（使用時・清掃時）／火気使用のルール／ペット飼育のルール／ボランティア活動ルール など

参考：品川区「避難所運営マニュアル【品川区標準版】（p.13-14,81）」（平成31年3月）

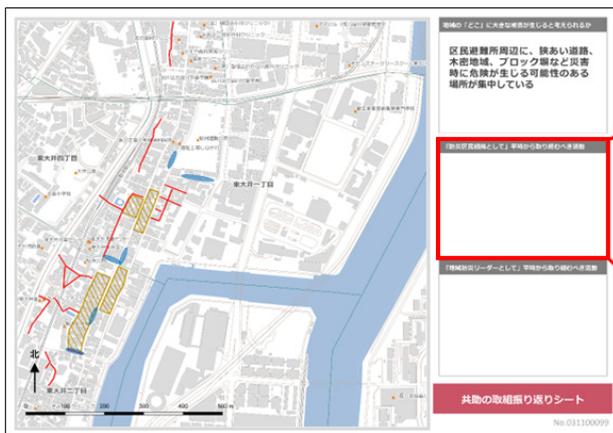


3. まとめ

**皆さんの避難所運営マニュアルには、
検討した内容が書かれていますか？**

作業：検討結果の反映

避難所開設・運営に関するワークショップを通じて、
今後、組織として今後取り組むべき活動を記入しましょう



避難所運営マニュアルを確認しましょう

避難所運営マニュアル【品川区標準版】を参考に
地域の避難所運営マニュアルを見直し・更新しましょう

マニュアルの見直し・更新の視点

- 近年の災害における課題を踏まえているか確認しましょう
- 訓練などを通じて出された課題を踏まえているか確認しましょう

留意点

- 地域の特性に応じたマニュアルの策定を心がける
 - 近隣に商業施設、大規模事業所、主要駅がある場合、帰宅困難者の可能性を考慮
 - 木造密集地域の場合、建物倒壊によって長期的な避難者が増える可能性を考慮
 - 高齢者が多い場合、自ら避難できない被災者が増える可能性を考慮

災害対応は長期戦

災害からの復旧・復興は、長期的に考える

災害関連死※を防ぐ取り組み

災害関連死は、避難所生活やその後の地域コミュニティからの孤立から生じることが多いため、地域が連携して予防策などを講じる必要がある

※ 災害関連死とは、地震や津波などによる直接的な被害によって犠牲となるのではなく、その後の避難生活など、災害によって日常生活が送れなくなったことによって亡くなる方のこと

復旧・復興から予防へ

災害対応は貴重な経験となるので、自地域では検証・伝承のため、他地域に向けては経験の共有のために、対応の記録をしっかりと残すように心がける

しながわ 防災 学校

5 限目

地域防災リーダーとしての役割

学習目標と学習内容

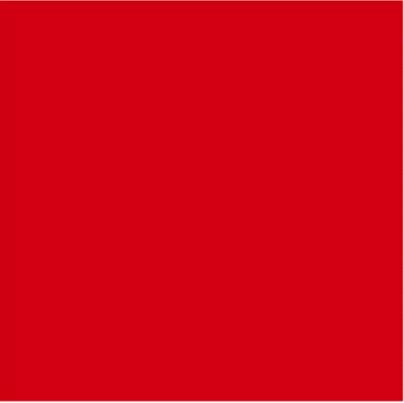
◆目標

地域防災リーダーとしての役割の理解を深め、地域で実践する際の考え方を理解する

◆内容

- | | | |
|-------------------|-------|----|
| 1. 地域防災リーダーとしての役割 | | 3 |
| 2. まとめ | | 20 |





1. 地域防災リーダーとしての役割

**地域の防災力を向上させるために、
地域防災リーダーには、
平時からどのような視点やスキルが
必要でしょうか？**

地域防災リーダーの平常時の行動事例

地域防災活動のきっかけづくり

- 防災訓練を開催し、消防団員の協力を得て、消火器や消火栓、防災サイレンの使用方法を習得
- DIG（災害図上訓練）を開催し、防災マップを作成
- 「婦人部」による炊き出し



消火器の使用訓練

リーダー（町会長）の役割

- **町会長が住民に対して防災の重要性を説き、「きっかけ」づくりとなる防災訓練実施への理解を深めた**〈茨城県常陸太田市里川町地区〉
- **町会長が中心となって防災訓練や他の地区の行事の日程調整を行った**ことで、準備が円滑に進み、多世代が参加できるイベントとなった〈茨城県常陸太田市里川町地区〉



DIG（災害図上訓練）の様子

参考：内閣府「平成22年度地域連携型防災活動育成促進モデル事業 地域における防災活動のきっかけづくり情報・ヒント集」（平成23年3月）

作業①：個人作業その1

地域の防災力を向上させるために、平常時から
地域防災リーダーとして取り組むべきことを書きましょう

記入ルール

付箋紙 1 枚につき 1 つのことを書きましょう！

防災に限らず、必要だと思ふ取り組みを書きましょう

訓練の
企画

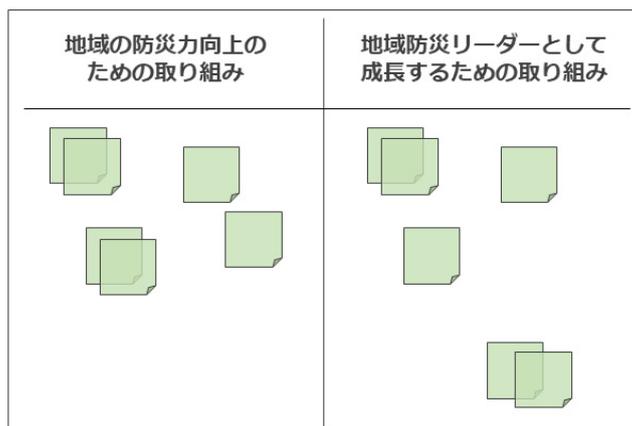
顔の見える
関係づくり

婦人会と
連携した
研修実施

作業②：共有作業その1

付箋紙を1枚ずつ読み上げたあと、意見を分類しながら
模造紙に貼り出しましょう

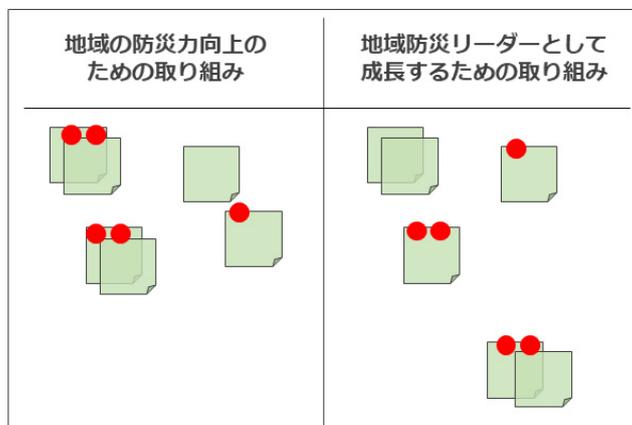
近い内容の意見は、
重ねるなどして
まとめましょう



作業③：共有作業その2

地域防災リーダーとして、今後重点的に取り組んでいきたい活動に
赤い●シールを貼ってください（いくつでもOK）

4 限目までの議論
を踏まえて、地域
にとって必要と考
える取り組みに
シールを貼りま
しょう



発表

赤シールが貼られた数が多い順に3つ

作業④：検討結果の反映

検討した結果や他グループの発表を聞いて、
組織として今後取り組むべき活動を記入しましょう

「地域防災リーダーとして」災害の被害が大きいと考えられる所

区民避難所周辺に、跌あい道路、水浸地域、ブロック壁など災害時に危険が生じる可能性のある場所が集中している

「地域防災リーダーとして」平時からの取り組みの振り返り

- あいさつ運動を通じた顔の見える関係の構築
- 地域の見守りマップを参考に、避難行動要支援者の見守りを行う
- 安否確認ルールを決める
- 避難所運営マニュアルの活用を促す

「地域防災リーダーとして」平時からの取り組みの振り返り

共助の取組振り返りシート

No. 031100099

「地域防災リーダーとして」平時から取り組むべき活動

- 安否確認訓練の企画を行う
- 災害時に冷静に判断できるよう、災害時の課題や教訓をさらに勉強する
- 婦人会や老人会のイベントの際に防災に関する講演や防災器具の紹介を行う

地域防災リーダーとして求められる条件①

地域防災リーダーとしての取り組みを確認してみましょう

- 多様な住民の存在を理解し、地域で共に協力し合う必要を認識する
- いかなる状況でも、差別的、反倫理的な言動を取らない
- 地域防災力向上のために、自主防災活動を地域活動の一環として取り組む
- リーダーシップ（指導・統率力）を發揮し、メンバーと協力して活動する
- 地域の特性（地理的特性、人的、物的資源の状況など）に関する知識を持っている

参考：総務省消防庁「自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会（第3回検討会資料）」（平成31年1月31日）

地域防災リーダーとして求められる条件②

地域防災リーダーとしての取り組みを確認してみましょう

- 日頃から積極的にコミュニケーションを図り、顔の見える関係を構築する
- 組織の取組を計画し、継続的に運営管理する
- 防災活動を活性化するため、地域で活動する各種団体などと相互に連携する
- 【平常時】自主防災活動の計画を作成し、計画に沿った活動を実施する
- 【災害時】状況に応じて冷静かつ柔軟に対応する

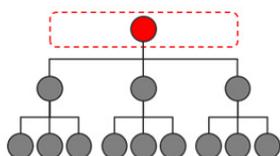
参考：総務省消防庁「自主防災組織等の地域防災の人材育成に関する検討会（第3回検討会資料）」（平成31年1月31日）

地域防災リーダーには 多様な立場・役割の方がいて、 災害時にも役割が変わる

多様な地域防災リーダー

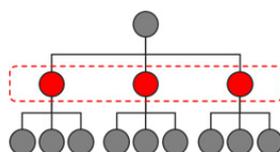
「防災リーダー」には、複数のタイプが存在する（一人だけではない）

Type.1
組織の代表者



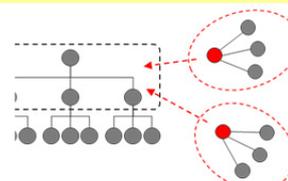
地域の防災力向上に向け、組織をまとめ、自主防災活動全般を見渡して地域を牽引する

Type.2
特定の活動の中心となる立場にある者



求められる防災活動の一翼を担い、具体的な防災活動の中心となる

Type.3
アドバイザー・調整役

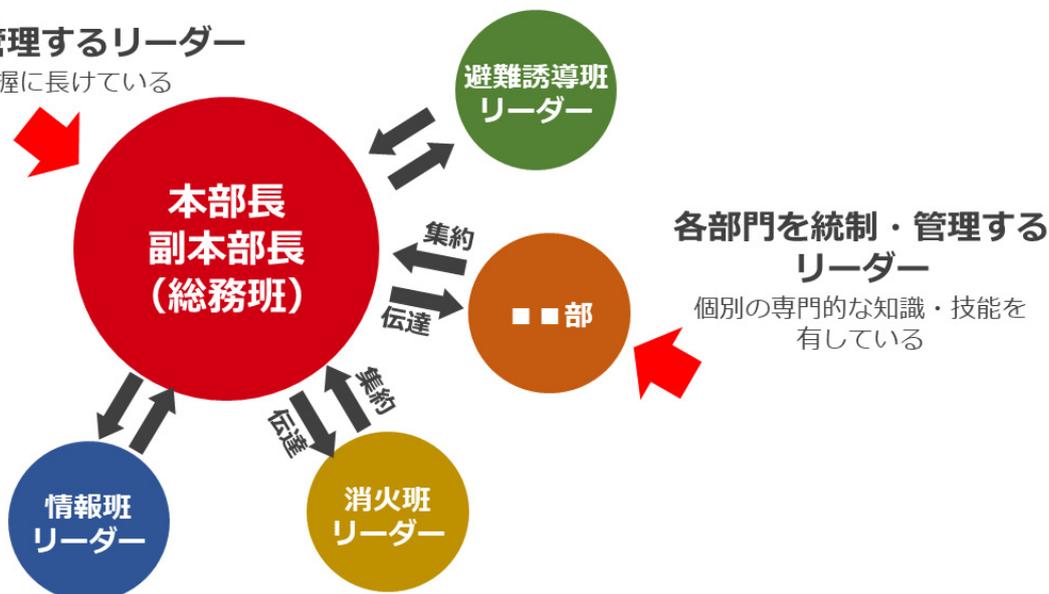


専門的見地より、組織の内外から自主防災活動に対しアドバイスしたり、防災活動を担う組織間を結びつなぐ

多様なリーダーのあり方

全体を統制・管理するリーダー

状況の全体把握に長けている



時間経過におけるリーダーの役割の変化

災害後は、時間経過によって求められる役割は変わる

「発災直後」の段階

直後の安否確認、救出・救助、初期消火、二次災害防止など緊急的な対応が求められる段階



リーダーには、主に統率力や迅速な判断力などが求められる

「避難生活期」の段階

災害発生から一定時間が経過した後の避難所運営、在宅避難支援、要配慮者支援など、きめ細やかな対応が求められる時期

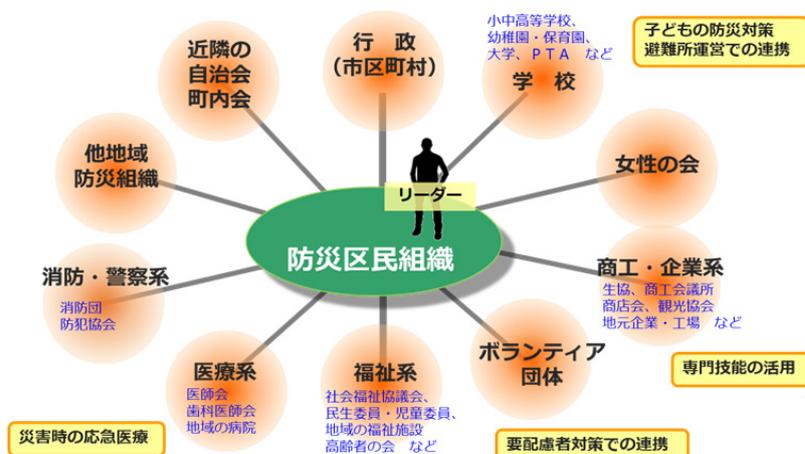


リーダーには、主に調整力や粘り強い交渉力などが求められる

リーダーだけでは、 災害対応は乗り切れない！

多様な主体との連携及び協力なくしては乗り切れない

リーダーには、地域の様々な人や団体との協働体制づくりが求められる



リーダーに仕事が集中しないようにする

被災者を含め、みんなで役割分担・協力しながら乗り越える



リーダー1人に組織運営や活動の指揮をお願いするのは負担が大きく、困難！



組織運営上の役割を分担してもらえる人、協力してもらえる仲間をつくり対応する！

2. まとめ

地域防災リーダーとして活躍していただく皆さんへ



地域防災活動を積極的に推進していきましょう

- **防災区民組織**の一員として
訓練やイベントを企画・運営し、地域防災力を向上させましょう
- **避難所運営の担い手**の一員として
各担い手と連携して対策を進め、災害時の対応力を向上させましょう
- **地域防災リーダー**として
防災に関する様々な知識・技能を身につけ、地域防災に役立てましょう

